多角的な視点からサポート

アスリートのためのスポーツ医療

スポーツに特化した医療に取り組む『熊本回生会病院』の“スポーツメディカルセンター”。スポーツ外来患者数は開設時から5年にして約11倍となり、多くのプロアスリートも受診している。ではいったいどんな医療なのか？　センターを統括する診療部長の鬼木先生に話を伺った。

熊本県では初※の実施 膝関節内PRP療法

2015年、熊本で初※めて開設された『熊本回生会病院』の〝スポーツメディカルセンター〟。その存在はメディアや口コミで県内外に広がり、学生からプロアスリート、一般のスポーツ愛好者まで、幅広い年齢層の患者が診察にやって来る。「当センターではケガの手術や治療に加え、ケガの予防、パフォーマンス向上まで視野に入れた独自の治療を行っています」と話すのは、センターを統括する鬼木先生。スポーツ外傷の中でも難しいとされる膝前十字靭帯損傷の再建手術など、靭帯・軟骨の手術を数多く手がけ、その症例数や実績は県内屈指の整形外科医だ。

「正確な診療を心がけています」と鬼木先生

自己の多血小板血漿を用いた整形外科治療、PRP療法

また、同院では米国のメジャーリーガーも採用している再生医療の一つで、筋腱靭帯などの軟部組織の損傷修復を促す自己多血小板血漿注入法（PRP療法）をいち早く導入していたが、2019年より適応拡大が認められ、同年4月から膝関節内へのPRP治療を開始※した。これは熊本県では初の取り組みで、10月までの半年間で約100膝に実施。県外からも多数の患者が受診し、顕著な効果を上げている。なお、PRP療法は自由診療となるが、自分の血液を用いるため副作用も少なく、外科的処置回避の有用な手段と言える。もちろん膝関節に悩みを抱える一般患者にも適応可能で、高齢者のQOL向上にも期待できる。

※2019年10月現在

進化し続ける〝スポーツメディカルセンター〟

全国各地より、学生からシニア、プロスポーツ選手が来院する〝スポーツメディカルセンター〟。2019年4月より、『熊本大学病院』から整形外科講師・中村英一先生を招聘し、診療体制を充実させた。中村先生は、膝関節・足関節が専門で、スポーツ傷害にも豊富な診療実績を持ち、技術の高い手術も手がけてきた。「中村先生が加わり、幅広い医療の提供が可能となりました」と鬼木先生。また、毎年国内外での学会報告（2018年度：13件）へも積極的に参加。同センターでの実績を報告することで、知見を深め、整合性を確認し、より正確な治療へと繋げている。この11月には三次元動作分析システム（アニマ社製〝ローカス3D MA-3000〟）を導入。マーカーをつけた人体の動作をデータ化できる仕組みで、故障の原因、身体のバランスの異常など、より正確に分析可能となった。さらに〝熊本ヴォルターズ〟のチームドクターに就任した鬼木先生は、トップアスリートの治療やケアにも力を入れ、東京五輪では整形外科ドクターとして選手村で活躍する予定だ。「来年は東京五輪イヤー。子どもたちがトップアスリートを目指す良い機会である。我々も、より細かい治療や指導を行っていきたい」と、ますます発展を続ける〝スポーツメディカルセンター〟となりそうだ。

“熊本ヴォルターズ”の選手・スタッフと鬼木先生

●PRP診療費用
2種：関節内(PRP 3ml)1回 66,000円～
3種：関節外(PRP 1ml)1回 22,000円～

リハビリテーションセンター
熊本回生会病院
診療部長

鬼木 泰成先生

日本整形外科学会専門医
日本臨床スポーツ医学会 評議員
日本スポーツ協会公認スポーツドクター
熊本県バスケットボール協会 副会長
“熊本ヴォルターズ”チームドクター